

令和5年度第1回弘前市廃棄物減量等推進審議会 発言要旨

- 日 時 令和5年7月26日（水）13：30～14：04
- 場 所 弘前市役所市民防災館3階防災会議室
- 出席者 樋口会長、阿保委員、飯田委員、石田委員、石塚委員、小田桐委員、加藤委員、佐藤（康）委員、佐藤（八）委員、西村委員、三橋委員
- 欠席者 安東委員、太田委員、佐々木委員
- 事務局 岩崎市民生活部長、菊池環境課長、田沢町田事業所長、山内環境課課長補佐、長内主幹兼資源循環係長、鼻和主幹兼廃棄物政策係長、安田廃棄物政策係主査、三上廃棄物政策係主事、高橋廃棄物政策係主事
- 内 容

1 開会（進行：山内環境課課長補佐）

2 部長挨拶

3 会議（進行：樋口会長）

(1) 【案件1】ごみの排出状況について

⇒【資料1】について事務局から説明を行った。

《質問・意見等》

- ・一人一日当たりごみ排出量（家庭系）について、他自治体のごみ指定袋を始めた時期と、どういう効果でこうした結果になったか教えてほしい。
→開始時期は手元に用意がない。効果として、ごみの排出抑制が期待できるが、年とともに薄れるとの情報がある。
- ・青森市、八戸市のリサイクル率向上のための取り組みは。
→具体の取り組みは把握していないが、青森市とは、熔融スラグ生成とプラスチック製容器包装のリサイクルで差がある。
- ・青森市は、紙類の資源化率の割合が高いようだが、どのような取り組みをしているのか。
→青森市は紙類の集団回収の割合が非常に高いが理由までは把握していない。調べて、参考にしたい。
- ・ごみ処理状況の28市における比較で、「廃棄物からの資源回収率」の低さが目立つ。リサイクル率では民間回収を含めた「実質リサイクル率」を独自に算出しているが、その考えを資源回収率にも反映できるか。
→本市分については民間回収を含めた資源回収率を計算可能。他市の民間回

収分が不明なため同一基準での比較はできないが参考比較は可能。

- ・民間回収を含めた実質的な資源回収率は掲載の数値より高くなるか。
→高くなる。
- ・「廃棄物のうち最終処分される割合」は28市平均値を下回るが、これは良い数値なのか。
→良いものではない。

(2) 【案件2】危険・有害ごみの分別について

⇒【資料2】について事務局から説明を行った。

《質問・意見等》

- ・危険ごみについて、中身が入った状態で集積所に出された場合でも収集するのか。また、収集しない場合、その後どうなるのか。
→エアゾール缶の中身が残っている場合、分別不十分のシールを貼り、残しておくが、残ったままであれば1か月後ぐらいに収集する。
- ・ボタン電池類のテープでの絶縁がされていないものはどうなるのか。
→絶縁していなくても収集する方向だが、なるべく協力いただけるよう周知をしっかりと行う。
- ・廃棄物減量等推進員の活動内容に電池の件も含めるのか。絶縁しなくても良いと認識が広がると絶縁しないものが増えるので、厳しくしたほうが良い。
→推進員の活動内容には含めない予定。絶縁は、より安全性を高めるためであり、しっかりと周知していく。
- ・燃やせないごみと危険ごみ、有害ごみの収集日は違う日になるのか。
→それぞれ別の日に設定する予定。
- ・モバイルバッテリーは大変危険であり、危険ごみ・有害ごみ・モバイルバッテリーの処分方法、出し方については、粘り強く十分な周知徹底を求める。

(3) 【案件3】その他

⇒【資料3】について事務局から説明を行った。

《質問・意見等》

- ・ピリカはスマートフォンがないとできないのか。
→アプリ版とウェブ版があり、アプリ版はスマートフォンが必要。ウェブ版は、パソコンやネット環境があれば利用可能。
- ・ピリカは、ごみを拾ってまちをきれいにする取り組みのツールとして面白い。これからどうやって広げていくのか。
→8月に弘前地区環境整備センターで開催される小学生の親子対象の科学フェスティバルに参加し、その場でピリカをダウンロードすると、エコグッズを差し上げるダウンロードキャンペーンを行う。10月の弘大祭にも同じ

ように参加する。

- ・いかに広げるかが非常に重要。
- ・市民を巻き込んで、ゲーム性を持ちながら楽しんで繰り返し広げるのはとても期待が持てるため、そうしたアイデアがあれば適宜実行してほしい。

4 課長挨拶

5 閉会（進行：山内環境課課長補佐）

○ 資料

- ・【資料1】ごみの排出状況について
- ・【資料2】危険・有害ごみの分別について
- ・【参考資料】2023 弘前市ピリカで始めるごみ活キャンペーンチラシ

○ 公開・非公開の区分…「公開」